

強者の戦略

【はじめに】

秋になったにもかかわらず、残暑が続いて秋の気配を感じない今日この頃です。ところで、東北地方では夏の降水量が少なく、ダムの貯水率が低下しています。関東地方でもダムの貯水率が低下して、取水制限が行われています。反対に西日本では、夕立などが多かったため、ダムの貯水率は大丈夫ですが、集中豪雨が多かったため、水害が起きました。特に、京都の宇治市では集落が孤立して、食料などの物資が届かないこともありました。

さて、話は変わりますが、民主党の代表選と自民党の総裁選が行われましたが、民主党は大方の見方通り、野田佳彦代表の再選となりました。一方、自民党の総裁選は、戦前の予想では石破前政調会長と石原幹事長が有力視されていましたが、なんと決選投票で安倍元首相が逆転勝利しました。また、自民党総裁の再登板は、結党以来、初めてのことです。

では、今回の解答・解説へといきます。

【解答例】

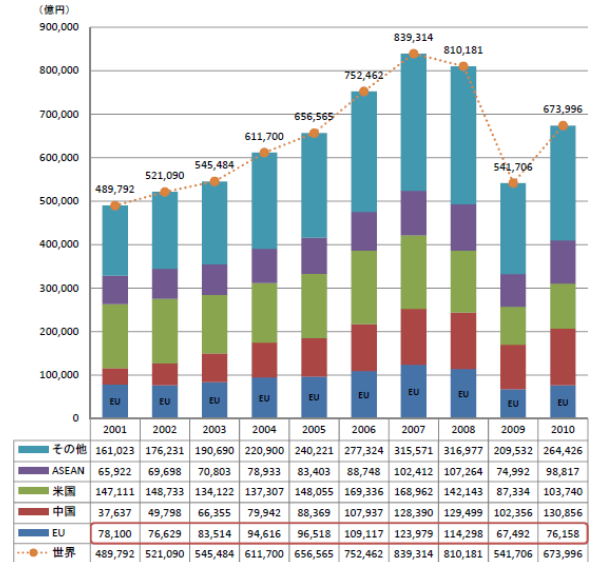
経済のグローバル化により、少なからず影響がある。初めに、EUについて、成長率が低下すると、貿易や投資に影響が出てくる。貿易に関しては、輸出入とも減少する。輸出は自動車の割合が高いため、自動車メーカーの収益が減少する。輸入は医薬品の割合が高く、日本で価格が上昇することが考えられる。また、投資については、日本企業が景気を考慮して、支店や工場などの投資すなわち対外直接投資が減少する。次に、中国について、成長率が低下すると、貿易と現地の日本企業の収益が減少する。貿易は輸出入ともに減少する。輸入は電気機器の割合が高く、関連分野の企業の収益が減少する。輸出は機械製品の割合が高く、関連企業の収益が減少する。特に、1990年代以降、産業の空洞化が進んだこともあり、日本企業が低コストを求めて中国に進出しているため、関係する企業は影響を受けることになる。もちろん、投資の面でも景気の悪化で減

少する。(395字)

【解説】

1. 日本とEUの貿易状況

①貿易収支 日本：対EU輸出



上の表からも分かるように、2009年に大きく落ち込んでいる。これは2008年に起こったリーマンショックの影響である。当初、リーマンショックは日本には影響がないといわれていたが、貿易には大きな影響が出た。特に、EUの貿易額は4割も減少した。こうしたことを考えれば、EUの成長率が低下すると、貿易に影響が出ることは明らかである。次に、品目別に見てみる。

②貿易収支 日本：対EU輸出の取引品目詳細

【分類別シェア】

食料品	0.2%
原料品	0.9%
鉱物性燃料	0.7%
化学製品	8.8%
原料別製品	7.2%
一級機械	24.4%
電気機器	20.2%
輸送用機器	22.3%
その他	15.3%

【概況品別上位10品目】

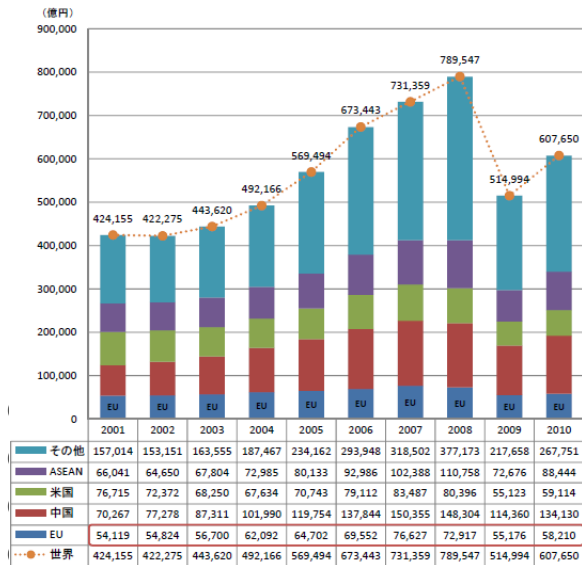
1 乗用車	12.9%
2 自動車の部分品	5.2%
3 原動機	4.6%
4 科学光学機器	4.2%
5 半導体等電子部品	4.0%
6 ポンプ・遠心分離機	3.1%
7 映像機器	2.8%
8 有機化合物	2.7%
9 船舶	2.5%
10 電気回路等の機器	1.7%

品目別に見てみると、やはり乗用車の割合が多い。EU加盟国のドイツやフランスなども乗用車では有名であるが、日本の乗用車は性能が高く、EUでも評価が高い。そのため、乗用車の輸出が多い。次に、

強者の戦略

輸入について見てみる。

③貿易収支 日本：対EU輸入



上の表のように、輸出同様、2009年に落ち込んでいる。輸出に比べて輸入の割合は低いので、それほど影響はないが、それでも全体の1割近くを占めるので、いづらか影響する。では、品目別に見てみる。

④貿易収支 日本：対EU輸入の取引品目詳細

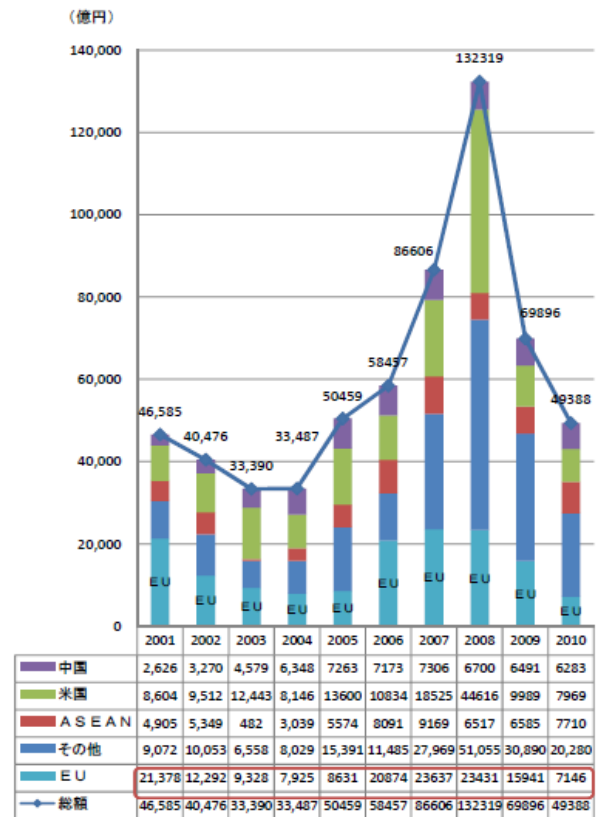
【分類別シェア】		【概況品別上位10品目】	
食料品	11.5%	1 医薬品	14.0%
原料品	3.3%	2 有機化合物	9.1%
鉱物性燃料	0.4%	3 自動車	7.9%
化学製品	31.5%	4 鉄鋼	7.6%
原料別製品	7.6%	5 魚介類及び同調製品	5.7%
一般機械	10.7%	6 科学光学機器	5.1%
電気機器	9.3%	7 原動機	2.7%
輸送用機器	11.1%	8 バッグ類	2.2%
その他	14.8%	9 自動車の部分品	2.1%
		10 電気計測機器	2.0%

品目別では、意外に医薬品の割合が高い。みなさんのイメージだと農産物や自動車かも知れないが、医薬品メーカーが多く、販売額で上位20位の約半数を占めている。そう考えれば、輸入のトップであるのも当然である。ちなみに、上位20位のなかに日本の医薬品メーカーは1社だけである。

以上より、貿易への影響は避けられないといえる。もちろん、輸出の主力商品である自動車への打撃は大きいといえる。

2. 日本とEUの投資状況

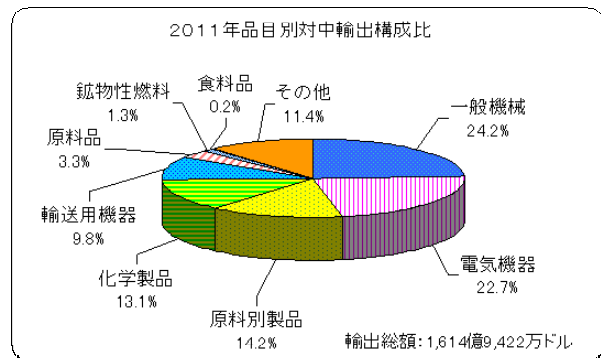
①直接投資収支 日本：対外直接投資



上の表から分かるように、2009年の落ち込みが目立つ。特に、EUへの投資が大きく減少している。この背景には、リーマン・ショックによる景気の悪化やギリシャの財政危機によるユーロの信用低下がある。そう考えると、成長率の低下により投資は減少する。

3. 日本と中国の貿易状況

①貿易収支 日本：対中国輸出

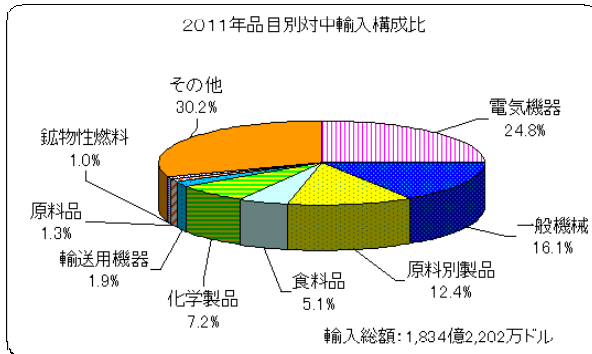


強者の戦略

上の表のように、輸出では一般機械の割合が高く、関連企業は輸出が減少し減益となる。しかし、自動車はこれに含まれない。また、電気機器も同様のことがいえる。そのうち、半導体などの電子部品の割合が高い。

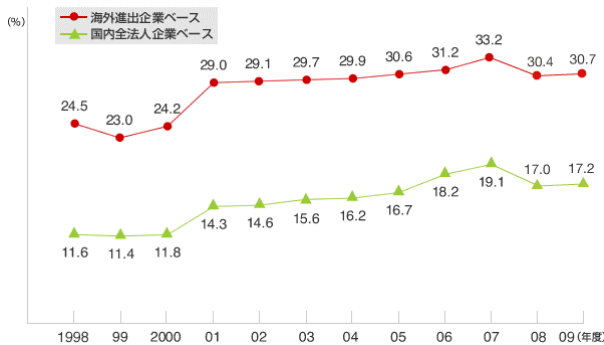
こうした状況を把握していれば、今回の予想問題にも対応できる。過去に産業の空洞化は出題されているので、分からなかった人は見直すようにしておきましょう。

②貿易収支 日本：対中国輸入



上の表のように、輸入の割合では電気機器が高い。しかし、これは日本の企業が中国に工場を建設し、そこで製造したものである。つまり、逆輸入により日本で販売されている。よって、逆輸入の分が減少するので、日本の関連企業は減益となる。

3. 産業の空洞化



上の表から、約3割の企業が海外に進出している。日本の企業が不況を背景に海外進出しているのが見て取れる。こうしたこともあり、コスト削減の観点からアジアを中心に進出している。特に、中国は経済特区を設けており、この特区では税制優遇があるため、日本は自動車メーカーを中心に企業が進出している。